

第3回 市民会館の整備検討懇談会 議事録

日時：令和元年10月29日（月）午後2時～午後4時

会場：名古屋市役所本庁舎5階 正庁

1 進行

- (1) 開会
- (2) 傍聴要項説明
- (3) 懇談会開催支援等業務受託業者（株式会社シアターワークショップ）挨拶
- (4) 資料説明
- (5) 質疑応答及び意見交換
- (6) 閉会

2 質疑応答及び意見交換

黒田座長

ありがとうございました。これまでの2回の懇談会での意見を反映していただいていると思いますが、これを出発点として、徐々に深堀し、具体的な話にしていきたいと思っております。どなたかからでも結構ですので、屈託のないご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

工藤委員

資料を見させていただきましたが、書かれていること自体は非常に良いことだと思います。今まで名古屋にはなかった「発信拠点」をつくるということは新しいことだと思います。併せて、発信拠点で創造をしていく、いわば「貸館オンリー」ではない劇場の姿が見えてきたのではないのでしょうか。ただ、「名古屋市民の発表の場でもある劇場」とも書かれているため、見ようによっては、あれもこれもとなってしまう、これから具体的にしていく際に難しい部分だと思います。例えば、今の名古屋市民会館は自主事業が少なく問題になっていますが、これからは自主事業が必要であり、「名古屋市民会館だからこそできる自主事業」が重要になってくると思っています。反対に、芸術創造センターや青少年文化センター等がある中で、名古屋市民会館としての自主事業は何なのか。また、地方都市と違って名古屋には文化団体やプロモーター等、文化的に影響をもつ団体が多い中、貸館の需要と自主事業のバランスをどのように取るのか。また、貸館と自主事業以外にも、提携事業等の方策があってもよいのではないかと考えています。

地方都市のあるところでは、1か月のうち3分の2を会館が自主事業のために押さえていましたが、実際には自主事業をそこまで多く実施せず、その結果として、何も催事が行われず館ががらんとしてしまったという事例もあります。簡単にできるものではありませんが、新しい劇場については、自主事業と貸館事業のバランスをより良い形で行う劇場になればよいと思っています。

また、まちづくりの中心として人が集まる劇場と言いますが、例えば、名古屋には図書館の文化関係の図書を全て市民会館に持っていったり、愛知県のアトライブラリーとも提携する等により、文化に関する資料ライブラリーができると良いと思いました。

最後に、貸館について、劇場が新しくなることで使用料があがることは仕方ないですが、団体によっては使用料が上がると劇場を借りられなくなるため、名古屋市の文化団体への減免措置等の検討を、名古屋市の助成金の制度と併せて、より使いやすくなるとよいと思います。

黒田座長

ありがとうございました。それでは次に高北委員お願いします。

高北委員

これまでに、2回懇談会有り、それをもとにコンセプトを作っていくとこうなるだろうな、という資料で、ツッコミどころがないなと思いました。やむを得ない部分もありますが、どこにポイントがあるのか読み解くと、「ストロー現象」については新幹線がある時点で既に現実化しており、もっと先の認識が必要だと思います。“名古屋とばし”という言葉についても、発信というところにもう少しポイントを絞って進めていくべきだと思います。

現大ホール、中ホールは現在使っている人の要望を反映させていき、現状の+αのようなことになっていくかと思いますが、一方で第3のホールについては、どうつくるのが重要になり、現在劇場を使うことができない人たちが、発信したい、鑑賞したいものになるための計画が必要だと考えています。

黒田座長

ありがとうございました。また具体化していく中で、大・中・第三のホールのそれぞれの役割についても考えさせていただければと思います。それでは、月東委員お願いします。

月東委員

今回、整備検討の中で、方向性・方針というレベルなので、様々なことを配慮して総括したものを作ろうという段階であり、抽象的な表現が多くなっています。本日参考資料としてお配りしていますが、事務局としては各種団体等にヒアリングを実施しているところでございまして、来ていただくお客さまの視点、演ずる側の視点、施設の管理や運営をされている方々の様々な意見をお聞きし、「ずっとそこにいることでの快適性」についての意見が共通してみられました。そういった点についても、今後具体化していく中で、どのように実現させられるか、検討していくべきだと考えています。

さらに言えば、実施設計等の段階になると、物理的な制限も考慮しながら進めていくことが、次の段階としてあると考えています。

黒田座長

ありがとうございました。それでは、林委員、お願いします。

林委員

1 回目の懇談会の際は、貸館に寄った議論でしたが、今回はすごく大きな転換かなと思います。恐らく「自主事業をやっていく」という意思表示になると思います。

自主事業についても、鑑賞事業、普及啓発事業、市民発表事業をやっていくということが書かれています。これは手間がかかることであり、人的体制が非常に重要になってくると考えています。

A 3 にまとめられた資料（議事説明資料②：新たな劇場の方向性について）に関して4つほど、文言について確認させてください。真ん中の「課題解決に向けた整備・事業運営の方針」の②の力「専門的人材を配置し、主体的で魅力ある事業を展開することで集客力の高い施設運営を実現」とあり、これは自主事業についての集客力かと思いますが、自主事業において集客力を重要視しすぎると、貸館事業と被ってしまい、普及啓発等の事業ができなくなってしまうため、注意が必要かと思います。

2 つ目に、①「国内外から注目される」というのは、実演者側の話と鑑賞者側の話とがあり、実演者については海外からいらっしゃる方も多いかと思いますが、鑑賞者についても海外から呼ぼうとしているかどうか、お伺いしたいです。

3 つ目に、「新たな劇場が目指す姿」の〈役割〉の中で「名古屋発／初」という言葉がありますが、これは市民発表の中での話なのか、自主事業で創作事業をやるのか、確認させていただきたいです。

4 つ目に、「課題解決に向けた整備・事業運営の方針」の③のエ)「オープンスペースを活用した文化芸術が身近に感じられるプログラム」とあるが、これは舞台芸術をイメージしているのか、展示も含めてイメージしているのか、お伺いしたいです。

黒田座長

では、事務局より回答をお願い致します。

事務局（文化振興室）

4 点ご質問をいただきましたので、事務局から説明させていただきます。

まず、1 点目、「集客力」についてですが、これは鑑賞事業について「集客力」という言葉を使っています。集客力がある、つまり話題性があるという意味で書いております。

次に、鑑賞者の考え方についてですが、これから国内外から注目される劇場を目指すなかで、近年海外から日本に来る外国人の増加を見越し、観光に次いでエンターテインメント体験の一つとして劇場に寄ってもらう、という視点が重要と考えています。文化芸術はボーダレスで言葉が理解できなくても楽しめる側面がありますので、それらを意識しながら事業展開を考えていくことが必要であると考えています。

3 点目、「名古屋発／初」については、自主事業として考えています。文化芸術団体と一緒に既存のものをミックスさせながら、新しいものを誘発し、それらを名古屋から発信していこうと考えています。

4 点目、オープンスペースでのプログラムについて、現段階では具体的なものはありませんが、イメージしておりますのは、現在、市内でフリーのスペースを使って実演家の卵のような

方々が活動されています。そのような方々に提供することも考えておりますし、今後、事業を展開する中のプレイベントとしてフリースペースを活用することも考えています。また、金山駅の近くのアスナルには小さなステージがあり、そちらでのイベントも若者を中心に好評をいただいているそうです。こういった機能についても今後考えていく必要があります、様々なものを想定しているところでございます。

黒田座長

林委員、何かあればお願いします。

林委員

そうですね。「名古屋発／初」については、「市民の文化芸術活動」の欄に記載があり、自主事業についてではないように読み取れるのですが、いかがでしょうか。

事務局（文化振興室）

地元の文化芸術団体の活躍の場を増やしていき、今まで文化芸術に関心のなかった人々も引き込む、新しいものを生み出していくということで、複数の団体を組み合わせながらの事業もヒアリングの中でご意見をいただいておりますので、このような形で記載させていただきました。

黒田座長

よろしいでしょうか。それでは、松岡委員お願いします。

松岡委員

様々なことをあれもこれも盛り込んでありますが、今の市民会館の場所でこれだけのことができるのか疑問に思いました。上野の東京文化会館だと、すぐ横に美術館があり、動物園があり、広い空間があり、ホワイエも広いので、四重奏をやっているのを見たことがあります、名古屋市民会館の場合、どの程度具体化できるのかなと思いました。

また自主事業は重要ですが、貸館としても利用させていただきたいので、平衡をどのようにとるのか検討していただきたいと思います。

黒田座長

ありがとうございます。それでは、山本委員お願いします。

山本委員

先程から議論にあがっている自主事業と貸館事業のバランスについては、私共は貸館で沢山使わせていただいているので、肩身が狭いなというのが感想でございます。私共は、各地いろいろなところで会館の自主事業として、よしもとのプログラムをやっていたりするので、そういったところで協力できるのでは、と考えています。例えば、市民に参加してもらう、よしもと新喜劇があつたり、虫食いのある漫才台本を市民の方にやっていただく漫才ワークショップもあります。一緒に考えていくことができれば、自主事業でも貸館との色合いの違いを出せる

のではと考えています。

また、名古屋に来てびっくりしたことの一つとして、信長・家康・秀吉を三英傑として一緒にあがめていることもすごいと思いましたが、その他に東西文化が入り乱れているというのは名古屋の特徴だと考えています。

我々が活動しているのは栄ですが、栄は外国の方がとても多くいらっしゃいます。フィリピン、ブラジル、韓国の方々が生活されていて、久屋公園でフィリピンフェスティバル、ブラジルフェスティバルが行われたりしています。多様性を認めるのであれば、市内でも国際的なソフト、プログラム、ワークショップをつくるのも1つの手だと考えています。

また、会館を新しくつくることは、まちづくりにも関わると思いますが、現状ではナゴヤドームでアーティストの公演があると、すぐホテルが埋まってしまいます。まちづくりの際には、宿泊施設の拡大も念頭においていただければ、文化に長けたまちになっていくのでは、と思います。

黒田座長

ありがとうございます。外国人は今とても多く、実習生の方々も多いと思います。多文化共生をどう進めるか、文化施設に関しても十分に配慮していただきたいと思います。

ホテルについても、ナゴヤドームでジャニーズ系のイベントがあると、どこもいっぱいになってしまいます。これまでビジネスホテルが多かったため、立派なホテルができることもよいと思います。それでは、山元委員お願いします。

山元委員

資料を拝見していて、今までにないとてもつものない、すごいホールを目指すことになるのかなと直感的に思いました。

共は名古屋市の外郭団体ではありますが、これまでに名古屋市内での活動は十分にできていませんでした。どちらかというと、市外の団体との連携が多かったので、今後は名古屋市内での活動を充実させていきたいと思っています。

色々な文化芸術団体がいますが、それぞれの団体でそれぞれ単独の公演を行うことに関して、経費的な問題等、様々な問題を抱えていらっしゃると思います。それを解消することも一つの目的ですが、一方で市がこれから自主事業としてどのようにプログラムを作るのか、これを機会に考えていく必要があると思います。また、それらを想定すると、現市民会館のリハーサル室だけでは足りず、あらゆるジャンルのあらゆるリハーサルが可能なスペースが必要だと考えています。また、それらを上演するために、大中ホール以外に、第3のホール必要なのか、またリハーサル施設の中でも小さいイベントができるようにするのか等、検討すべきだと思います。

また、国内外からの来場者、出演者についてですが、名古屋市が新しく作る劇場が市のランドマークとなっていくために、最初は観光目当てで訪れていた人々が、その後継続して劇場に訪れていただくための方策が必要だと考えています。海外のホールに行くと、どこのホールにもバックステージツアーを行っています。日本国内ではあまり多くありません。例えば、バックステージツアーをよしもとの若手芸人がご案内役をするのも一案かと思っています。

自主事業と貸館事業のバランスの問題はとても難しいものだと思いますが、名フィルとしては、地元文化団体として、劇場に住んで、中心的な存在として活動していけたらと考えております。

黒田座長

ありがとうございました。オブザーバーのお二人にもご意見を頂戴したいと思います。住宅都市局都市整備部の竹田部長よりお願い致します。

竹田都市整備部長

A 3にまとめられた資料（議事説明資料②：新たな劇場の方向性について）の「課題解決に向けた整備・事業運営の方針」という部分の、②のオ）「愛知県芸術劇場と役割分担した事業の実施」、③のア）「名古屋市内に多数ある文化施設が有機的に連携し、名古屋市に文化芸術を普及させ、文化力の底上げを実現する取り組み」という部分について、計画をこれから作られていく中で、連携だけではなく役割分担がどのようにしていくのか、新しい劇場がどのような立ち位置になるか、もう少し明確にみえると良いと思いました。

また、まちづくりの視点でいきますと、「課題解決に向けた整備・事業運営の方針」の④のア）「地域の文化芸術団体との連携」、右側の「新たな劇場が目指す姿」〈役割〉の3「人と文化芸術が盛んに行き交う、当地域を代表する文化交流拠点」ということで、いわゆる名古屋駅がスーパーターミナルを作り、名古屋駅、栄駅とは違うこの金山をレベルアップさせ、金山の地域だけではなく、中部圏も含めた広いエリアの中で役割をもち、その地域を代表していくという考え方で、まちづくりを進めていきたいと考えております。「地域」という書き方についても、広いエリアを想定していただけると良いと思っております。

本日は方向性についての議論であり、この先に、実際の規模、機能等を詰めていく中で、今後整備をしていく我々と、現段階の検討をすり合わせていくこととなりますが、単独か、複合かも検討が必要ですし、民間活力については、どの程度民間からの活力を得るのか等の仕組みの話など、当初から絞りこまずにご議論を頂いた中で整理して決まっていくことだと考えています。

黒田座長

ありがとうございます。それでは、文化振興事業団事業部の岡田事業部長、お願い致します。

岡田事業部長

私からは2点です。1点目は、第3のホールについてです。今回の資料で提示されているように、文化芸術の発信や鑑賞の場のためには、やはり第3のホールが必要だと考えています。今の市民会館の利用率をみても、3つ目のホールが必要です。その際に、キャパをどうするか、自主事業の規模、専門家の配置など、議論になると思いますが、名古屋市内のほかの文化施設も分析して、どのくらいのキャパが適切か検討していく必要があると思います。

2点目は、アーカイブ機能についてです。名古屋の文化芸術関係者の資料を一か所に集約すべきと考えています。芸術創造センターにも一部ありますが、中々集約されていないので、もしスペースがあるのであれば、新しい市民会館にアーカイブ機能があると良いと考えています。

黒田座長

ありがとうございます。それでは、永井委員お願い致します。

永井委員

いろいろなご意見を伺っていて、共感するところもあり、考えを巡らせていたところですよ。まず、キーワードとして「劇場」という言葉が取り込まれている印象があります。他都市の様々な行政の方々と劇場に関する委員会では、「劇場」というキーワードで文章を書いていくことはなかなかなかったり、「劇場」という言葉を使って様々なことを盛り込んでいる資料はなかなか見受けられない中で、名古屋市のこのプロジェクトにおいては、かなり踏み込んで先に進んでいこうとするパワーが感じられました。とても意識の高い劇場を目指しているという印象があります。

これら全てを実現させると、かなり高度な劇場づくりになり、全国的にも目立つ最先端なものになると思います。専門家だけの劇場は存在しないと私は考えていて、専門家だけでなく、市民の日常的な関わり合いがこれまで以上に増えてくると感じています。2000年ごろに「専門家だけの劇場」が少しずつできてきて、文化会館では専門性が必要だと言われてきた中で、地域の劇場がボランティアや文化サポーターなどの取り組みを始めたという流れがあります。それから20年経つ今、ボランティアや市民の関わり方が、より多様になっていると感じています。名古屋市のこのプロジェクトでは、専門家、市民の関わり方について、先にいく形で見据えていけるかと思っています。

具体的に申し上げますと、資料の「課題解決に向けた整備・事業運営の方針」②カ)「専門的人材の配置」については、どの劇場でも共通するところではあります。また、「集客力の高い施設運営」については、慎重に取り組む必要があると考えています。「集客力」のみに惑わされてプログラムを組んでしまうと、貸館と同じタイプの劇場運営になってしまいます。むしろ、集客力をあげていく専門的スタッフの有無が重要になってきます。その上で魅力的な鑑賞型のプログラムを選択できる専門的人材がいると良いと思いました。

また、これまで「新たな劇場を目指す姿」といったときに、行政だけでなく専門家とのコラボレーションや、行政・専門家・市民の三者が一体となって劇場運営をしていくということが叫ばれてきましたし、それに沿って多くの劇場ができてきたと考えています。その中で、多様な価値観を容認する社会になってきたために、より専門的な人材の導入が必要になってきていると感じています。「多様」や「自由」というものをはき違えて「なんでもあり」という発想になると、劇場を運営する上では、非常に危険だと考えています。様々な価値観や、社会的側面を取り込んだ舞台作品や展示、パフォーマンスがあったときに、様々な問題が起きてくることを早いタイミングで責任をもって選択・判断ができる人材が必要だと改めて思いました。

話はずれますが、「新たな劇場を目指す姿」の位置づけ部分の「人々が楽しみ、引き込まれ、感化される」という表現がありますが、「感化する」にはいい意味も悪い意味も含まれると思います。「触発される」等の表現など、再検討が必要だと思います。

また、これだけのパワーがあると、市民にも注目していただけたと思います。より専門性の高い人が必要な中で、地域の活性化に貢献してきた市民プロフェッサー的な位置づけをもう少し見直してもよいと思いました。様々なジャンルがあり、様々なマナーや約束事が違う中で、

重要なのは判断力だと思います。近年では、近現代演劇や2.5次元ミュージカル等、若者の価値観が変化している中で、その価値観の変化についていく事で精一杯というのではなく、価値観の変化のその先を見据えた劇場づくりをしていく必要があると考えています。

さらに、第3のホールについては、専門家が最終決定をできる空間であれば良いでしょうし、市民が利用しやすいように300席以下にする事がよいと感じています。例えば、ロールバックチェア等を導入し、様々な客席数に変えられるような空間がよいと思います。また、“最先端”のものについても、少し立ち止まってみるタイミングも必要であるため、アーカイブ機能は重要だと考えています。

黒田座長

ありがとうございます。委員の方々から様々なご意見をいただきました。本日はシアターワークショップの方々にはらしていただいているので、今の委員の意見を踏まえて、他館の事例等で参考になるようなお知恵があれば、お話いただきたいと思います。

事務局（シアターワークショップ）

まず市民会館自体が目指していく方向性としては、ご意見いただいたように最先端になり得る方向性を弊社からもご提案させていただいております。「国内外から注目される劇場」を目指すということもありますので、これまでに事例のない劇場となるよう、お手伝いさせていただこうと考えております。

名古屋市の課題としては、施設運営上の課題の部分で、「ホール間の連携不足」が挙げられています。名古屋市の施設配置を拝見すると非常に特徴的です。小劇場が各地域に配置され、その上で芸術創造センターや青少年文化センターがあり、その上で市民会館がある「ピラミッド型」は非常に独特であると思っています。例えば横浜市は類似する施設配置になっていますが、各区に市民ホールを配置して市民利用を促進しています。横浜市と名古屋市を比較すると決定的に違うのは運営者です。横浜市の場合、文化財団がありますが、必ずしも市の施設を文化財団に一任していません。市民ホールであっても民間の運営者をいれ、競争原理が働くようにしています。名古屋市の現状では、すべての小劇場を市の事業団が運営していますが、名古屋市の中で運営面においても市内で競争原理を働かせ、文化力の向上を促す、運営側の努力が今後あってもよいと感じています。

黒田座長

ありがとうございます。事務局から何か補足があればお願い致します。

事務局（文化振興室）

委員の皆様から、非常に様々な観点からのご意見をいただき、大変参考にさせていただいているところでございます。

現状の金山にある市民会館を新しくするだけで実現できるのか、という質問については、必ずしも現状の今の場所と今の規模で建て替えるということではありません。まちづくりと一体となってどうしていくのか、地域の分散も場合によっては考えることもあるかもしれません。

そのような様々な観点の前段階として、まずは構想を考えていき、その中で現実に合わせていくことは次のステップだと考えています。まずは理想としてはどのようなものを今年度議論していきたいと考えています。次年度以降、制約の中で収束させていく場面が必ず出てくると考えていますので、その際に具体的な制約をどう処理していくのか、議論していきたいと考えております。

シアターワークショップさんも仰っていましたが、やるからには全国にない新たな取り組みを先駆けてやりたい、という事については従来からの名古屋の精神でありますので、まずは理想を考えていきたいと思っております。

黒田座長

ありがとうございます。今のお話を踏まえて、委員の方、ご意見等お願い致します。

林委員

「専門的人材」という言い方がされていますが、どのような専門的人材が必要か、今後議論が必要だと思います。私の体験からお話すると、専門的人材を動かす専門的人材が必要だと考えています。専門性が高いと、組織がモザイク化され、隙間が生まれてきますが、その隙間を埋め、みんなの方向性を整える専門的人材も必要だと思っています。

最新機能、最新設備、拡張性というお話もありましたが、舞台技術の専門的人材も不可欠だと思いました。愛知芸術劇場では、技術監督が配置されており、常に新しい技術を取り入れて、新しいことにチャレンジできるようになっています。専門的人材についてもプロパーが必ず良いわけではなく、入れ替え、内製、外注を繰り返す必要もあり、プロパーと委託の技術者が常駐する仕掛けが必要だと思っています。また、技術に限らず、企画制作などの事務系職員についてもプロパー100パーセントがよいかどうか検討が必要であり、行政と両輪でまちづくりをしていくためには、派遣職員とプロパー職員を混ぜることが必要だと考えています。

黒田座長

ありがとうございます。他に何かございますか。

工藤委員

シアターワークショップさんに質問です。さきほど横浜と名古屋の事例をお伺いしましたが、現状の名古屋市内のホールについて、各ホールの連携ができていないという事が問題としてあげられており、より連携をしていくことも重要です。横浜市の事例では、競争原理で運営がなされているそうですが、それぞれの特徴を出すいい意味での競争原理をもち、連携をしていかないと、矛盾してしまうのではないかと思います。その点についてお伺いしたいです。

事務局（シアターワークショップ）

「競争原理」の意味合いについては、まさにおっしゃる通りです。横浜市の場合は各ホールを任された指定管理者がまずそのホールをより良くしていくことに注力します。その上で、横浜市がコントロールする力をとても強く持っています。行政と運営者の関係性の構築についても、文化行政の在り方として検討する必要があります。複数の施設を如何に名古屋市が取り

まとめていくか、その仕組みを考えつつ、各施設をボトムアップさせ、連携する体制を構築し、それを市が繋いでいくという仕組みを検討していくことが必要であると考えています。

黒田座長

横浜市の場合、特殊なやり方であると思いますが、どのように仕組みを作っているのでしょうか。

事務局（シアターワークショップ）

仕組みを正確には把握できておりませんが、横浜市は指定管理者に対するモニタリング機能を構築しています。定期的に現場巡回等をし、指定管理者に対する年度評価を行う等の制度を構築しながら、全体としてのバランスをとっていると理解しています。

黒田座長

ありがとうございます。他にございますか。

高北委員

ちょうど関連の質問になります。市内の文化芸術施設の連携のお話がありましたが、県の施設、特に愛知県芸術劇場とのコミュニケーションは、今まで定期的にとられていらっしゃるのでしょうか。

林委員

現在、愛知県と名古屋市と共同で人材育成の事業を自主事業として行っています。それ以外にも、「名古屋ホール協議会」というものがあり、名古屋市の民間、公立問わずホールが集まり貸館の状況を共有する会議もあります。また、狭い業界ですので個人的に親しい人も沢山おりますので、コミュニケーションは行われていると思います。

黒田座長

事務局より細くあればお願い致します。

事務局（文化振興室）

連携について、現在は制度的なものは設けられていませんが、林委員が仰るように、即時的な関係性、ネットワークを使い、情報共有することはあります。ただ、運営管理者が全く変わる場合、そのようなことができない場合もありますので、今後有機的に連携するのであれば、制度を作る必要があると考えています。

また、横浜市の事例の補足になりますが、横浜市は指定管理に民間を入れているかわりに、自分たちにも評価を課され、毎月施設をまわり、モニタリングをするといったハードワークをしながらコントロールをされていると聞いておりますので、横浜独特のものだと考えています。

黒田座長

ありがとうございます。他にありますでしょうか。

永井委員

今の皆さんのお話をきいて、気が付いたことですが、他ホールとの連携は大事だと考えています。沢山鑑賞者も集まってくるでしょうし、これからそのようなまちづくりをしていくということで、多くの人が集まるエリアになる。そのような時に、どちらも良さを活かした連携ができると良いと思います。今までの連携だと、パワーバランスにより一方が強みを持つ、主導権を持つところが多い気がしています。むしろ、名古屋市と他のまちが同じレベル、パワーで頑張れる連携があると良いと思いますし、それを誘発することのできる劇場のプランだと良いと考えました。

黒田座長

ありがとうございます。これらを踏まえて、事務局から何かございますか。

事務局（文化振興室）

周辺、他都市との連携は非常に重要だと考えています。我々は地域を代表する文化施設を目指すということで、少なくとも東海エリア、中部エリアの中にある様々な団体・施設を踏まえた検討が必要と考えています。

また検討にあたり、周辺のホールについても拝見させていただく中で、名古屋市に横のネットワークがあれば、より上手くいくと実感しました。これらはハードの作り方にも影響しますが、まずはソフト面についても、他都市の方々やスタッフ等と連携が可能であるのか、また我々が連携を図ることでプラスになっていくことがあるのかどうか、知恵を絞る必要があります。“閉じた施設”というよりは、地域まで繋がりを持った施設になっていくことが重要な視点だと思います。

黒田座長

ありがとうございます。他にございますか。

林委員

補足です。愛知芸術劇場で市と連携している事業の一つに、海外から小規模の団体を招聘して愛知県内をまわるという事業があり、愛知県が招聘して入国・ビザの関係を担当し、市町村に一部お金負担してもらい、技術者を市町村の財団から用意、運営についてもサポートしていただくという事業も行っています。

また、設置者においては、政令指定都市と県との意見交換会を定期的に行う等の連携を行っています。

シアターワークショップさんに質問ですが、既存の劇場の建替の際に、運営者はどうなることが多いのでしょうか。

事務局（シアターワークショップ）

一概に言えないというのが実情です。建替は全国的にとっても多いですが、地方の場合、これまで指定管理者を導入していなかった館が、直営から指定管理に変更する事例も多いです。

また、都市部に関してはPFIで開発することが非常に多くなっていますので、民間が一体となって開発を行い、そのまま運営者になるというケースも増えてきています。そういった意味で、直営や財団の指定管理者であったところが、民間に移行していく事例は都市部で増えてきている印象を持っています。

林委員

ありがとうございます。

もう一点、質問です。山元さんに対してですが、愛知県芸術劇場では自主事業を実施しており、貸館でも使用していただいておりますが、ユーザーから見て貸館と自主のバランスはどのように見えていらっしゃるでしょうか。

山元委員

表向き、自主事業だとわかりにくい事業も多いですが、県の自主事業はそこまで多くない印象を持っています。一方で自主事業によって貸館の施設予約ができない、という弊害も感じていません。

林委員

愛知県芸術劇場には自主事業のスタッフも多くおり、相当頑張っていますが、外部からみると自主事業を多くやっている印象は持たれません。つまり様々なことを発信していくということとはとても大変なことであり、今回の決意表明を私は高く評価しています。

黒田座長

ありがとうございました。施設間の連携について、事業団の岡田部長から何かございますか。

岡田事業部長

今、林委員がおっしゃったように、愛知県芸術劇場との連携はありますが、事業団の管理施設は現在22あり、まずはより沢山の方に使っていただけるように利用調整で情報を流し、多くの団体に使っていただけるようにしています。また文化小劇場では、一つの事業を何館かで企画し、共に回すという事業も行っています。

黒田座長

市民会館とは連携していないのでしょうか。

岡田事業部長

指定管理者制度のもと、現在はやっていないというのが現状です。貸館として市民会館を利用することはありますが、それ以外は特にございません。

黒田座長

わかりました。ありがとうございます。その点についても今後検討が必要だと思います。他の委員の方、何かございますか。

松岡委員

現在、自主事業は少ないなと感じています。ただ、この案をみていると、今後多くなりそうだと思います。

黒田座長

ありがとうございます。山元委員、さきほどリハーサル室についてご意見がありましたが、どの程度までお考えですか。

山元委員

自主事業をやるやらないに関わらず、様々なジャンルの方々が利用する劇場であると想定すると、様々な利用が可能なリハーサル室が必要だと考えています。例えば、音楽中心のリハーサル室も、様々な規模のものがが必要です。その他にもお芝居などが加わると、限りないスペース、様々な特徴を持つことも必要になってきます。反対にそれらを上手く活用することで、劇場の特徴付けになるのではないかと考えています。名古屋市音楽プラザについても稼働率が高く、スペースがあればニーズがあるという事が現状です。

オーケストラに限ったことですが、ウィーンフィルハーモニーが本拠地に行っているムジークフェラインでは10年程前に新しいリハーサル室を地下につくりました。海外の方が表向きは古い劇場でありながら、中を変えていって新たなものを作られたりしています。

黒田座長

ありがとうございます。その点もまた具体的に検討が必要かと思います。他にございますか。

永井委員

基本的には、盛り込まれている印象ですが、ちゃんとやればちゃんとできることが書かれているように思うので、あとは行政の方の覚悟やお金、人材育成をやるかどうかというところだと思います。資料としては重要な事が書かれており、「劇場文化」というキーワードによって裾野を広げていくという視点や、市民が日常的に訪れる工夫ができる劇場であるという事など、専門家が大事だと考えていることについて盛り込まれていると思います。

バレエ団の松岡さんに質問です。私も舞踊の方々との企画プロデュースをしており、もともとバレエをやっていたけれど、今はコンテンポラリーをやっている方々とお仕事する機会があるのですが、愛知はバレエやコンテンポラリーの活動をしている方々が全国で一番多いと聞いております。沢山いる中で、東京に出る方もいれば、愛知で頑張る方もいて、運営に関してやる人が減っている等の課題もあるそうです。一方で、コンクールの中ではコンテンポラリーや大人バレエ等、様々な進化していると聞いています。これからの劇場と文化団体との連携というのは、皆が希望している状況なのでしょうか。

松岡委員

“芸どころ名古屋”と言われる場所ですので、優秀な人材は育っています。クラシックバレエだけではなくコンテンポラリーも盛んです。私たちもその勉強が必要なので、本公演とは

別に公演をやって、コンテンポラリーの振付家を呼んで振付をしたりしています。名古屋の人は古典が好きなので、なかなか集客は難しい場合があります。そういう時こそ、市との連携が必要だと考えています。

古典に関しては意外に集客がよいです。上演するもの、ターゲットをどの年代に絞っていくかによって、集客はできると思います。大人バレエについても、それに係わることで新たなきっかけにもなり得るので、色々なやり方があると思います。

また、事業団と組んで小学校、保育園にチラシ配布すると、チラシ配布と同時にほぼ完売という状況になります。やり方によってはそのような状態も可能だと感じています。

永井委員

専門家を育てるという意味もあるし、それと同時に舞台をみる観客を育成できると良いということですか。

松岡委員

そうですね。専門家になる人はほんの一握りですので、裾野を広げ、皆にわかりやすいものから、こういうものも勉強してみようというものまでやっています。まずは見てもらわないといけないので、そういった流れを連携して作っていったらと思います。

黒田座長

他にございますか。他にないようですので、本日の懇談会は以上とさせていただきます。